



ARCHTECTURE REVIEW



建築見て歩記 その111

冒険家・植村直己の故郷、兵庫県の日高町にある「植村直己冒険館」です。1994年に栗生明の設計で開館しました。植村の偉業の紹介や、人間性までが展示されています。建物は、細長い箱に様々な立体が張り付いた形状でスロープを下り入館すると、彼が最後に消息を絶ったクレバスを思わせる自然光に満ちた、天井の高い空間が奥へと続き、各展示室へと導かれます。

CURRENTLY WORKS



クリニックの改修…「変えないデザイン」その3

建物外観はほとんど更新しておらず、エントランスドアを、両開きから親子ドアに変更して、車椅子への配慮を行った程度です。ただしサインの更新に際して、ロゴマークを見直しました。このマークは、開業時に先生自身がデザインしたのですが、ほんの少しバランスに手を加えてメジャー感を意識し、曲線で柔らかさを加えたサインに織り込みました。

PRIVATE TOPICS



藤原のこだわり その23

この「縮景園」は広島市内にある1620年から続く池泉廻遊式庭園です。作庭は上田宗箇によるもので、縮景園という名前は各地の景勝を縮めて表現しているという意味だそうです。戦災により消失しましたが、戦後の復興により蘇りました。各所いろいろな顔があり、ブリッジ、梅園、茶室、船着き場など、まるで一つの集落のような飽きのこない素敵な庭園です。

EDITORIAL NOTE

「紅葉」はモミジとも読みますが、美しく紅葉するのは、モミジ属ではなく、殆どがカエデ属です。「紅葉狩り」という表現がありますが、実際に取って来るものではありません。「狩る」は本来、動物に対して使われていましたが、果実などにも使われ、その後、「鑑賞する」という意味にもなりました。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島